

しもだ 下田港海岸環境整備事業（まどが浜海遊公園）

受賞機関 静岡県下田土木事務所

はじめに

下田港は、ペリー来航による開国の舞台となった歴史のある港であり、現在では、大型高速船が下田港～清水港間で運航されるなど、伊豆半島南部の海上交通の拠点となっている。

当港柿崎地区においては、海岸保全の機能向上はもとより、これまで自然環境が失われ閉鎖的な空間であった海岸部に、利用しやすく親しみのもてる快適で美しい海岸の創出を目指し、平成5年度から海岸環境整備事業により、「まどが浜海遊公園」の整備を進めてきた。

公園内には、駐車場、足湯、休憩所、砂利浜が整備されるなど、市民の憩いの場、観光交流の新たな拠点として、大きな期待が寄せられている。

また、公園に隣接した「道の駅・開国下田みなと」と一体的な利用がされており、陸海両面での交流拠点となっている。



足湯を楽しむ人々

施設概要

- 公園面積：約37,000m²
- 遊歩道：約1,100m



公園全景

- 芝生面積：約6,600m²
- 人工海浜：約3,600m²
- その他施設：休憩所、トイレ、足湯
- 駐車場：乗用車112台、バス5台

事業の特徴及び効果

公園内の植栽は、2年間にわたり地元の小中学校、花の会、地元自治会など200人を超える参加者により行われた。

遊歩道では「開国のまち・下田」にまつわる史跡を、地元小学校の卒業生が描いた絵画とともに紹介している。また、非常時には、芝生広場をヘリポートとして利用できるなど、防災拠点としての二次的な効果も期待できる。



株分けをする小学生



史跡紹介の絵画

おわりに

本年4月には、外務省主催の日露修好150周年記念式典が、小泉首相や駐日ロシア大使などの出席のもと行われるなど、開園以来、大きなイベントの会場として多くの人に利用されており、着実に成果が上がってきている。

これからも、効率的、効果的な維持管理を図りながら、いつまでも人々に愛される魅力ある公園を目指していきたい。

読者の皆さんも「開国のまち・下田」に足を運んでみてはいかがでしょうか。

賛助会員 河津建設㈱